

# 解 説

## 岡山県の集約酪農事情

花 尾 省 治

昭和 29 年酪農振興法が定められたのですが、その当時の本県の酪農は乳牛頭数 6,200 頭、牛乳生産量は 13,400 トン程度でした。それが今日では乳牛頭数 19,116 頭(本年 4 月 1 日調)牛乳年間生産量約 40,000 トン(昭和 34 年度)と躍進してまいりました。この伸びを集約指定時と比較してみますと、何れも 3 倍以上になっております。

集約指定前の 27 年頃までは酪農地帯は南部に比重が重く、その飼い方も濃厚飼料にかたよった飼い方で飼料の自給について十分考慮が払われていませんでした。特に草地の改良造成は積極的に行われていなかったのであります。又酪農家率、1 戸当りの乳牛飼養頭数等も低く酪農経営全般にわたって問題も多かったのであります。従って酪農生産費は今より可成り高くなっていました。このような経営の状態ですから乳価高のときは何とかやれますが一度乳価が下がるとよろめき酪農となり牛はやせ牛乳は減り、終りには折角入手した牛を手離すはめとなりました。一方乳業会社からみますと、牛の数が少ないから集乳量は少ないし集乳路線は長く複雑で、高い集乳費がかかり、又集乳所、クーラーステーション等の設置数も少なく乳の品質はおち、二等乳の発生率が高いし工場も非能率的なのに加えて経営がまずいといったものもありました。

そこでこのような状態を改善しさらに酪農を発展させるために集約酪農の地域指定が行なわれ酪農振興を積極的に行なうことになったのであります。集約酪農の地域指定は、①計画的な乳牛頭数の増加②牛乳生産量の増大③飼料自給度の向上④農家の共同集乳組織の整備⑤合理的乳業施設の配置など計画的に酪農の集約度を高めることを目標にしたもので、酪農振興計画を県が作り、この計画を進めるために指導助成をすることにしたのであります。

ところで岡山県の集約酪農地域は、美作・備中・旭東の 3 つの地域が国の指定を受けまして現在 62 の

市町村の範囲にわたって集約酪農地域の建設がなされております。

これ等の地域別の酪農の進捗状況を見ますと、第一に美作集約酪農地域ですがこれは戦後の新興地で 26 年頃は 750 頭位しか乳牛はいなかったところです。30 年の 10 月に指定されたのですが現在の地域総面積は 22 万ヘクタールで、そのうち 7 万ヘクタールの草地と 13 万ヘクタールの林地となっています。この地域は他の地域と違いホルスタイン種とジャージー種との 2 つの地区となっております。この地域の振興計画も 34 年度で一応完成をみたのですが牧野造成をいたします原野林地がまだまだ残されておりますし、ジャージー地区をもっと広げてゆく必要も考えられますし、合理的酪農事業施設の配置といった関係等もあり、集約酪農振興計画を更に 3 ヶ年延長して 37 年度までといたしましたのであります。この変更計画目標は最終年次に農家が 1 戸当たり当りホルスタイン種では 3 頭、ジャージー種で 5 頭を飼養することにし、酪農経営規模を拡大し酪農での収益をより多くすることにしております。

そして指定当時の飼育頭数は 2,000 頭余り、飼育戸数 1,500 戸 1 戸当り飼養頭数は 1.3 頭であったものが、これが 34 年度では飼養頭数 7,000 頭、飼育戸数 3,500 戸、1 戸当りの飼養頭数 1.8 頭と先ず順調な伸びを示しております。

29 年から新しい品種として輸入されましたジャージー種は、2,500 頭に増えてまいりました。ジャージー地区は蒜山(川上・八束・中和・湯原)地区と津山市だけでしたが、その後地域拡大の必要から新庄・美甘・久世・勝山・東西粟倉・大原等の各町村を新に加えることにいたしました。ジャージー種の計画導入につきまして当初国の貸付牛として外国から輸入していましたが、この導入事業は昭和 32 年度で打切られ現在は生産されました仔牛の再貸付と世銀借款でのオーストラリアからの輸入とによって増

**岡山畜産便り 1960.09**

殖しております。世銀導入は33年度200頭、34年度300頭、本年度を最終といたしまして200頭を入れることになっております。

牛乳生産では30年度2,900トンでしたが34年度は12,000トンで、計画当初からみますと4倍余りの増産となっており、前年比では140%という伸び方となっています。これは計画に対し135%というよい伸長を示しています。これとともに牧野改良事業の実施面積は34年度までに711ヘクタールで、これは計画に対して69%、又サイロの設置数は34年度まで4,500基で計画に対して74.6%となっております。美作地域については牧野の改良造成（グリーンプラン計画）事業を強力に推進し、飼料の自給度の向上によって生産費を切り下げ、乳牛の質的な改善を図りますと同時に、経済的な飼い方、あき腹期間を短くし1年1産を目標に進む等酪農経営の体質改善を進めねばなりません。

**1 美作集約酪農の進捗状況について**

- 1 指定 昭和30年10月12日  
昭和33年度に地域拡大変更  
昭和34年度に計画変更（34年度完成を37年度に延長）
- 2 地域 28市町村
- 3 乳牛の増殖状況

|  | 30年度           | 31年度           | 32年度             | 33年度             | 34年度             |
|--|----------------|----------------|------------------|------------------|------------------|
| 飼育戸数   | 1,568<br>(356) | 2,082<br>(449) | 2,489<br>(583)   | 3,418<br>(842)   | 3,753            |
| 飼育頭数   | 2,112<br>(556) | 3,007<br>(863) | 4,011<br>(1,118) | 5,778<br>(1,665) | 7,089<br>(2,277) |
| 一戸当飼養頭数  | 1.3<br>(1.4)   | 1.3<br>(1.9)   | 1.4<br>(2.0)     | 1.7<br>(2.0)     | 1.8              |
| 34年度は前年度に比べて123%の進捗<br>// ジャージー種は136.7%<br>○34年度末計画頭数は7,050頭であるが計画に対して実績は100%の進捗状況である。<br>( )内はジャージー種。 |                |                |                  |                  |                  |

**4 牛乳の生産状況**

|                                    | 30年度    | 31年度    | 32年度    | 33年度    | 34年度    |
|------------------------------------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 生産乳量                               | 2,955   | 4,673   | 3,952   | 8,557   | 12,000  |
| 1頭当生産乳量                            | 1,399.4 | 1,556.3 | 1,481.3 | 1,481.0 | 1,693.7 |
| ○前年比 140.2%<br>○計画数8,889トンに対し 135% |         |         |         |         |         |

**5 牧野改良事業**

|                                   | 30年度     | 31年度 | 32年度  | 33年度  | 34年度  |
|-----------------------------------|----------|------|-------|-------|-------|
| 牧野改良面積                            | 295<br>a | 380  | 684.6 | 659.4 | 711.6 |
|                                   | 13       | 12   | 17    | 11.4  | 10.0  |
| ○前年比 108%<br>○計画 1,030haに対し69.08% |          |      |       |       |       |

**6 施設設置状況**

○サイロ

|   | 30年度  | 31年度  | 32年度  | 33年度  | 34年度  |
|---|-------|-------|-------|-------|-------|
| サイロ数  | 1,475 | 2,099 | 3,256 | 3,754 | 4,500 |
| 1頭当サイロ数                                     | 0.69  | 0.69  | 0.80  | 0.60  | 0.63  |
| ○前年比 120%<br>○34年度中の新設 746<br>○計画に対して 74.6% |       |       |       |       |       |

○サイレージカッター 820台

備中地域は集酪指定後4年目を迎えますが34年度末5,870頭（32年度始頭数2,699頭）で指定当時の2.2倍の伸びであり酪農戸数3,356戸となっております。牛乳生産量では13,700トン（前年比176%）31年度実績の3倍近い伸びとなっております。この伸びを地区別に見ると笠岡以外は計画以上となっておりますが、浅口地区は伸び悩んでおります。自給飼料面では草地造成の可能な町村はこれに主力を注がねばなりません。この地区は畑地が多いのですから畑地に牧草を取り入れることは勿論水田裏作に牧草を導入し自給率の向上を図ることが大切なことです。収益の高い酪農経営、もうかる酪農とするには乳牛1頭当りの泌乳量を増すこと、繋養頭数の増加、暖地酪農として落等乳の発生の防止等に努めねばなりません。

**2 備中集約酪農進捗状況**

- 1 指定年月日 昭和32年9月24日
- 2 指定市町村 21市町村  
(内北川村が35年度より笠岡に合併したので20市町村となる)

**3 酪農家戸数および頭数の進捗状況**

|       | 昭和32年度 | 昭和33年度末 | 昭和34年度末 | 昨年度対比            |
|-------|--------|---------|---------|------------------|
| 酪農家戸数 | 1,813戸 | 2,933   | 3,312   | 増 423戸<br>114.4% |
| 乳牛頭数  | 2,699頭 | 4,997   | 5,879   | 増 979頭<br>119.5% |

## 岡山畜産便り 1960.09

### 4 飼料作物および草地の進捗状況

|      | 昭和<br>32年度 | 昭和<br>33年度末 | 昭和<br>34年度末 | 前年度<br>対比             |
|------|------------|-------------|-------------|-----------------------|
| 飼料作物 | 1,221ha    | 1,000.25ha  | 1,996.89ha  | 増<br>996.64<br>199.6% |
| 草地   | 117.4      | 135.0       | 340.08      | 251.9%                |

|       | 昭和<br>33年度末 | 昭和<br>34年度末 | 昨年度対比                   |
|-------|-------------|-------------|-------------------------|
| 酪農家個数 | 1,478戸      | 1,879       | 増<br>401<br>戸<br>127.1% |
| 乳牛頭数  | 2,475頭      | 3,218       | 増<br>743<br>頭<br>130%   |

### 5 生乳生産の状況

|       | 昭和<br>32年度 | 昭和<br>33年度 | 昭和<br>34年度末 | 前年度<br>対比             |
|-------|------------|------------|-------------|-----------------------|
| 生乳生産量 | 5,967.4t   | 7,788.0t   | 13,724.0t   | 増<br>5,936t<br>176.2% |

### 4 飼料作物および草地の進捗状況

|      | 昭和<br>33年度末 | 昭和<br>34年度末 | 前年度対比                   |
|------|-------------|-------------|-------------------------|
| 飼料作物 | 87.51ha     | 872.8ha     | 増<br>786.29ha<br>998.5% |
| 草地   | 26.85       | 85.46       | 増<br>58.61ha<br>182%    |

### 6 その他酪農家施設設置状況

|      | 昭和<br>32年度 | 昭和<br>33年度 | 昭和<br>34年度末 | 前年度対比           |
|------|------------|------------|-------------|-----------------|
| サイロ  | 1,527基     | 2,108基     | 2,548基      | 増 440<br>120.8% |
| カッター | 356        | 662        | 980         | 148%            |

### 5 生乳生産の状況

|       | 昭和33年度末  | 昭和34年度末  | 前年度対比                 |
|-------|----------|----------|-----------------------|
| 生乳生産量 | 4,555.3t | 6,096.3t | 増<br>1,541t<br>133.8% |

旭東地域は34年3月の指定であります。34年度末3,220頭で計画頭数に近い伸びとなっております。牛乳生産量は34年度末6,000トンで前年比は133.8%であります。この地区は水田を主とした市町村が多い関係から水田裏作に牧草の導入を重点に行い、又水田面積の多いものは田畑輪換も考え自給飼料の増産を図ることが肝要でしょう。特に西大寺、邑久町等を中心とした地区は本県として酪農の歴史の古いところですから乳牛の資質は一般に向上しておりますが酪農家の諸施設、その飼い方等は案外改善されておられません。牛の健康、繋養年数の延長受胎率の増進等に努力を要する点があると思います。又この地区は酪農専任技術員が殆んどおかれてないので今後この指導力の充実を図らなければなりません。暖地の関係で二等乳防止には特に注意を払っていただかねばなりません。

### 6 その他酪農家施設設置状況

|      | 昭和<br>33年度末 | 昭和<br>34年度末 | 前年度対比            |
|------|-------------|-------------|------------------|
| サイロ  | 493基        | 837         | 増 344基<br>169.7% |
| カッター | 154台        | 227         | 増 73台<br>147.4%  |

岡山県も今日では阪神の準市乳供給地となってきましたし、最近めざましい経済の成長によって所得は増大し牛乳乳製品の消費は大きく伸びておりますので酪農の体質改善を図って抵抗力の強い酪農に育てていただきたいと思ひます。

## 3 旭東集約酪農進捗状況

- 1 指定年月日 昭和34年3月16日
- 2 指定市町村数 14市町村
- 3 酪農家戸数および頭数の進捗状況